

2022年5月31日世界禁煙デーに開催 禁煙・卒煙による仕事のプラスの効果を発信 建設業界での禁煙を啓蒙 ポイ捨てによる煙草の吸殻を清掃

リフォーム事業を中心に4社の子会社をもつ株式会社NEXTAGE GROUP（本社：東京都港区、代表取締役社長：佐々木洋寧）は、2022年5月31日の世界禁煙デーにタバコの吸殻などを拾う美化活動と、建設業界での禁煙を推進していくために、禁煙、または卒煙したことで起きた仕事へのプラスの効果を発信するための話し合いイベントを開催しました。

■建設業界で「禁煙」への意識を醸成する

当社は顧客宅での工事の際に「たばこのにおいが気になった」との指摘を受け、2015年11月から顧客に喜んでいただくサービスの提供を目指して社内の卒煙活動をスタートさせました。約2年間をかけて当時全社員330名中130名いた喫煙者の卒煙を達成し、現在まで社内の喫煙者0を継続し続けています。

当社は年間6000件の住宅リフォーム工事を実施しているため、当社の施工職人ではなくパートナー企業の職人に当社の顧客に対しての工事を依頼することがあります。その際パートナー企業にも現場での禁煙を依頼し、顧客満足度向上に努めるとともに、それに協力してくれるパートナー企業や、卒煙に取り組む企業に対しては年に2回開催される安全大会にて表彰を行うなど、禁煙に取り組むパートナー企業への啓蒙活動にも力を入れています。

それでもまだ建設業界では喫煙者が多いことを実感しているため、禁煙活動について少しでも考えるきっかけになればとの思いから世界禁煙デーに工事を行う地域でたばこの吸殻などを拾う美化活動に取り組みました。また、喫煙者に対して禁煙をしたことで得られた仕事への効果などの声を発信するために、卒煙者だけの話し合いを開催し、パートナー企業と共に禁煙への意識を醸成させるための意識改革の取り組みを実施しました。



美化活動の様子



禁煙したことで起きた仕事への効果を話し合う

■話し合いによって出た仕事へのプラス効果の声

喫煙者に話を聞くと「煙草をやめたい」と思ったことや、過去に禁煙を試みた経験があるという人が数多くいます。一方、卒煙者だけの話し合いにおいて卒煙した社員から話を聞くと、「集中力が持続するようになった」「においを気にせず、自信をもってお客様に説明ができた」「煙草休憩の時間が無くなり、業務が効率化した」などの意見が多く、卒煙したことで仕事へのプラス効果が出ていることが明らかになりました。

今回の話し合いイベントで収集した「禁煙、卒煙したことによる仕事へのプラス効果」を改めてパートナー企業や禁煙を試みたものの実現できなかった人達にも発信し、今後も当社では建設業界の禁煙への啓蒙活動に積極的に取り組むとともに、禁煙にむけた意識改革を行うための発信にも力を入れていきます。

【話し合いに参加したメンバーから得た主な意見】

性別	喫煙歴	禁煙・卒煙してのプラスの効果
男性	3年	何度か禁煙を考えたが、いざ禁煙すると集中力が向上した気がする。考え事をしている時に、途中で一服するなどの時間が無くなり効率が上がった。
女性	5年	卒煙してたばこのにおいが気になるようになりました。今までは自分自身がたばこのにおいで相手を不快な気持ちにさせていたのかもしれないと思うと、自信をもって接客ができるようになった。
男性	10年	たばこを吸うための休憩時間が無くなり、業務時間は増えていると思う。
男性	10年	お客様と話をする際にたばこのにおいがするか気にしていたので、気にせず仕事に集中できるようになった。
男性	12年	食事をした後などに、たばこを吸える場所を探して時間がかかってしまうことがあったが、その時間が無くなり、しっかり休憩をとることができて、仕事にも集中できるようになった。